日本アディクション看護学会
News Letter 第18号
2011年11月30日　発行
日本アディクション看護学会事務局

第10回日本アディクション看護学会学術集会を終えて

学術大会大会長　　森　千鶴　（筑波大学大学院）

10月１日、２日と筑波大学 大学会館で第10回日本アディクション看護学会学術集会を開催いたしました。170名余の皆様にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。

筑波大学は、３月11日の東日本大震災の影響で一部建物の倒壊等があり、開催が危ぶまれた時期もありましたが、大学関係者の皆様のご尽力により、場所の変更はいたしましたが、無事に開催できて安堵しております。また、会員としても日が浅く、学会のことを十分に理解できていない中、第10回という節目の大会に大会長をお引き受けし、緊張の連続でしたが、実行委員長をはじめ、実行委員の皆様に支えていただいたお陰で、無事に終了することができ感謝しております。

本学術集会のテーマは「アディクション看護の専門性の追究－エビデンスのある看護実践のために－」としました。これはエビデンスのある看護を実践するために、どのように考えればよいのか、またどのようにすれば良いのかを考えたくテーマとさせていただきました。

自治医科大学看護学部教授
永井裕子先生

基調講演として、自治医科大学看護学部教授の永井優子先生から「アディクション看護実践と研究」というテーマで講演をしていただきました。永井優子先生のこれまでのご経験からアディクション看護実践から研究に発展させることの方向

性について具体的にお示しいただき、皆様も新たな追究すべき課題が浮かんで来られたのではないかと思います。これを機に、アディクション看護の新たな一歩を進めるために、これからの10年で看護実践のエビデンスを明らかにしつつ、精神看護学の重要な1領域として専門性を追究していくことが必要になると考えています。

学術大会大会長　　森　千鶴先生
筑波大学大学院

本学会の大会長講演では「エビデンスのある看護実践とは」というテーマで話をさせていただきました。

まず、「エビデンス」とは何かについて検討しました。1970年代のはじめに、ヘルスケア介入の効果についての系統的レビューを作成し、管理・普及させ、エビデンスに基づく実践（Evidence-based Practice）を推進するためにEvidence-based Medicine（EBM：エビデンスに基づく医療）の必要性が言われはじめました。1992年オックスフォードにCochrane Centerが設立され、この頃から看護においてもエビデンスに基づく看護（Evidence-based Nursing）の重要性が言われるようになりました。

エビデンスの活用には、専門領域の研究や一連の諸研究の結果を、オリジナルの研究と関係のない実践に適用できるようにする「研究の運用」と結果をそのまま「活用」する2つの方法があることをお示ししました。

研究の運用では、「概念的運用」「説得的運用」「道具的運用」の3種類の運用について概説しました。しかし種々の問題により、看護研究で得られた結果を活用しようとすることは少なく、看護研究で得られた結果は、重要なことであると認識しているにもかかわらず、現実には則さない、ルチンワークに組み入れられない等の問題があり、現実的には活用されないことが多いという報告についてご紹介しました。

次に、エビデンスのある看護実践を求めるための私見を述べました。まず、個々の看護師が自己の実践を言語化することにより、看護師相互の視点の違いや判断の違いを明確にすること、そして、ディスカッションの重要性についても言及しました。ディスカッションでは、自己の意見を明確化すると同時に、自分とは異なる人の考えを理解することができると考えています。また、身の回りにある工夫を見直し、ステレオタイプでとらえないようにすることも重要ではないかと提言させていただきました。さらに、看護師はキャリア発達を目指すことが必要であると強調いたしました。これらのことを通して、実践に役立つ看護研究の課題

を見出すことができると考えます。アディクション看護では、援助の効果を何で測定するのか、どのような研究方法が妥当であるかを決めることは困難なことが多いように感じます。そのため看護研究方法を的確にし、看護実践の根拠となる研究結果を導くために、研究者と臨床看護師が手を組んで行う共同研究も有用であると考えます。

さらに、看護教育での充実の重要性を述べました。精神看護学においても、専門分化し、対象者による看護実践の違いを明確にすることが、今看護の教員に求められているのではないかと感じています。学習目的、目標を明確化すること、教育方法を工夫することは改善が可能だと思います。

最後にアディクション看護の専門性を求めるために、専門職者として継続的に学習し、研究に携わることの重要性を述べました。しかし大事なことは、看護師としてどのような看護を提供しているのか、それはどのような意味があるのかをまず自問自答することではないかと思います。

そして対象者にどのような影響を与えているのかを具体的に確認すること、自らのアセスメント、看護実践、評価を言語化して積み上げていくことが、一人一人の看護師にできることではないかと考えているという私見を述べさせていただきました。

第10回日本アディクション看護学会学術集会を終えて

東京医療保健大学東が丘看護学部
田中留伊

第10回日本アディクション看護学会学術集会【アディクション看護の専門性の追究－エビデンスのある看護実践のために－】が、2011年10月1日(土)～2日(日)に筑波大学（筑波キャンパス）大学会館にて開催されました。

初日の午前には、日本アディクション看護学会松下年子理事長の挨拶の後、森千鶴大会長による大会長講演【アディクション看護の専門性の追究－エビデンスのある看護実践とは－】が行われ、次いで、自治医科大学永井優子教授による基調講演【アディクション看護実践と研究】が行われました。先生方の講演は、実際に行われてきたアディクション看護の実践について振り返ると共に、エビデンスのある看護実践を行うことと看護研究の関係性について、多くの示唆が得られる講演でした。

午後にはワークショップ4題と一般演題13題の発表が行われました。今大会では同一の時間帯に一般演題とワークショッ

プを開催し、参加者が選択できるようなプログラムとしました。WS 1【未成年者飲酒防止活動報告：若者の飲酒を考えるフォーラム】では、若者の飲酒を考えるフォーラムというイベント活動の報告を通して、未成年者の飲酒防止活動の必要性や関係者の連携について考える機会となりました。WS 2【特定看護師（仮称）導入可能性を背景にアディクション看護の専門性を考える】では、現在、厚生労働省で検討が行われている特定看護師（仮称）について、3人のシンポジストが研究者や臨床の立場から発表を行い、アディクション看護の専門性と今後のあり方について検討が行われました。

WS 3【リカバリーとの連携の在り方について検討する】では、当事者の方の発表を通して、医療専門職者の連携や協働について検討が行われました。WS 4【医療観察法における物質使用障害に関する看護】では、実際に医療観察法病棟で物質使用障害のある患者に対して行われているプログラムや看護について、3施設の看護師から発表がありました。各施設での個別性や医療観察法下でアディクションアプローチを行う難しさについて話し合いがもたれました。一般演題は下記の3群に分かれて進行し、第1群臨床実践、第2群看護職の責務、第3群家族支援に関連した発表が行われました。参加者からは、「他の施設の話が聞けて良い刺激になった」・「実践への示唆に繋がる意見が聞けた」等の意見をいただきました。初日のプログラムを締めくくる懇親会は大学会館食堂で行われ、事前申し込みを大幅に上回る約70名の参加者を得ました。美味しい料理や美酒を交え、アディクション看護について白熱した議論をしました。

二日目の午前には、ワークショップ2題と一般演題10題の発表が行われました。WS 5【「虐待」について考える　～虐待される子どもに焦点を当てて～】では、スクールカウンセラーでもある発表者が、各年代の虐待と思われる事例について報告を行い、参加者と共にケースを読み解きながら、地域で連携していく等の有効な支援の方法や現実的な対応策について検討が行われました。WS 6【社）座～奈良ダルク～における治療共同体プログラムの実演】では、実際に奈良ダルクで行われている活動の様子が報告された後、職員（当事者）数名により、エンカウンターグループの実演が行われ取り組みが紹介されました。二日目の一般演題は下記の2群に分かれて進行し、第4群当事者支援、第5群調査研究に関連した発表が行われました。「当事者に行われている支援の様子が伝わってきた」・「実践

への示唆に繋がる研究が聞けた」等の活発な意見交換が行われました。今大会では実行委員会の段階より、一般演題が多く発表される場にしたいと考え、多くの先生方に声をかけさせて頂いたり、演題募集期間の延長を行ったりしました。その結果、一般演題23題と多くの方に発表して頂けたものと考えております。

（千葉マリアさん）

学術集会を締めくくる最後のプログラムとして、SARS（Salvia Addiction Recovery Service）開設者の千葉マリア氏をお招きし、【薬物依存症者との出会い～共に生きるものとして～】をテーマに市民講座を行いました。初の試みではありましたが、市民と学会員を合わせて約80名の参加が得られました。

当日は千葉マリアさんが体調を崩されており、病院から直接会場に駆け付けるという状況の中、講演が始まると笑いを交えながら体験談を語られ、アカペラで歌を披露する等、身体の不調を感じさせない内容となりました。また、入寮者の方と千葉さんの長男である館山ダルク施設長の十枝晃太郎氏にも助っ人として参加して頂きました。参加者の感想では「親子でお話をして頂くという機会が得られ、両方の視点から意見が聞けて有意義であった」や「日頃聞くことのできない入寮者の貴重な体験談を聞くことができて良かった。また、話をしてくれたことに感謝します」という意見を頂きました。このことより、市民の関心の高さがうかがえると共に、学会の役割でもある予防・啓発活動にも繋がったと考えております。

関東とはいえ少し遠いイメージのある筑波大学で開催という事、また、東日本大震災という日本人にとって大きな出来事があり、開催できるのかという不安もございましたが、無事に開催させて頂けましたことを心より感謝申し上げます。

参加して頂きました皆様からは「多くの一般演題が聞けて良かった」や「市民講座等の新しい取り組みもあって充実していた」等のご意見を頂きました。一方「一般演題とワークショップが同じ時間帯で聞きたい発表が聞けなかった」というご意見も頂きました。至らなかった点につきましては、お詫び申し上げると共に、次年度の大会に引き継ぎができたらと考えております。

最後にニューズレターの紙面をお借りしまして、第10回学術集会を開催するに当たり、ご指導頂いた理事や評議員の先生方、学術集会運営に携わって下さった実行委員やボランティアとして参加して下さった皆様に深く御礼申し上げます。また、学術集会に参加して下さった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実行委員会役員から一言

日本保健医療大学　阿部由香

はじめに、東日本大震災におきましてお亡くなりになられた方々に対し深い哀悼の意を表しますとともに、被災地の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

第10回日本アディクション看護学会学術集会が森千鶴大会長のもとに開催され、無事終了いたしました。関心を寄せてくださった方、参加してくださった方、開催にあたり協力してくださった方など、みなさま本当にどうもありがとうございました。私は第10回学術集会開催にあたり、一実行委員を務めさせていただきました。主な担当は印刷物関連で、封筒・ポスター・抄録表紙のデザイン、学術集会ホームページ作成などです。

『作成に関する後記を』とニューズレター編集部よりご依頼をいただきましたので、少し振り返ってみようと思います。まず、実行委員会初回に、「印刷物においてキーカラーは紫、学会ロゴも使用する」と決まりました。キーカラーは筑波大学開催ということもあり、“筑波紫”と呼ばれる紫を用いました。少々専門的ですが、組成は［C,M,Y,K=76,84,0,0］、［HTML=#6600CC］です。学会ロゴは、本来黒色ですがデザインの都合上いろいろな色に変化させています。そうして、キーカラーとロゴは封筒に始まり、ポスター、抄録、ホームページ…とデザイン展開しています。

封筒・ポスター・抄録表紙に使用したフォントは「HG丸ゴシックM-PRO」です。“やわらかい雰囲気の文字がいい”との案から、このフォントに決まりました。一般にポスターや冊子の表紙では、ゴシック体や明朝体を使用することが多く、丸ゴシック体は珍しいかもしれません。みなさまはどんな印象を持たれたでしょうか。

学術集会開催は秋でしたが、筑波は自然環境が豊かなところです。筑波大学の春～秋の変化を楽しんでいただけるような写真を4枚選別しています。

学術集会ホームページは、HTML文書で作成しています。素人の手作りゆえ、見づらさや使用しにくさがあったと思います。ご不便をおかけして大変申し訳ありませんでした。ここで、ちょっとお知らせがあります。学術集会ホームページにて、学会の様子などを一部掲載中です。お時間に余裕のある方は、是非ご覧ください。現時点では、H23年度末まで掲載予定です。

第10回日本アディクション看護学会
学術集会ホームページ：
http://www.jhsu.ac.jp/adec.html

学会学術集会に参加された会員感想

長崎県立大学看護栄養学部看護学科
河口朝子

筑波大学筑波キャンパスにおいて、第10回日本アディクション看護学会学術集会が10月１日・２日に開催されました。大会長は森千鶴先生、大会テーマは、「アディクション看護の専門性の追求―エビデンスのある看護実践のために―」でした。10周年の記念すべき学術集会に参加し、アディクションを抱えた対象者の問題（苦悩）、それに向き合う看護者・支援者の実践活動の実態と分析の報告を聞きました。

（学術集会　会場）

なかでも私にとって大変興味深く、衝撃的だったプログラムは、座　奈良ダルクによるワークショップでした。テーマは、「座～奈良ダルク～における治療共同体プログラムの実演」でした。依存症からの回復に有効な依存症治療プログラムのひとつであるエンカウンターグループが奈良ダルクスタッフの方々によって公開実演されました。

スタッフＡさんの心にしまいこんでいた悩み（自責の念）を数名のスタッフとの対話（意図的）によって、Ａさんのこころが自己開示されていく過程が展開されました。最後にスタッフからＡさん自身の存在を認め、これまでの行動を褒めるというメッセージがＡさんへ返されました。通常、アディクション看護の治療場面に参画することなど不可能なことです。今回、多数の学会参加者がいるにもかかわらず、治療場面をリアルに再現し、複雑な思いや感情を見事に表出されたＡさんと奈良ダルクの皆様に心より感謝いたします。病を抱えているひとの自立（自律）を促すとはどういうことなのか、看護者に多くの示唆を与えて頂きました。

アディクション看護の専門性とは何か、学会中も考えていましたが、まだ言語化できません。学会で沢山の臨床の現象に触れ、その現象を可視化し、エビデンスを蓄積していくことの課題を大会長から頂きました。臨床・研究・教育に携わる人と当事者が共同し、専門性が言語化できると素晴らしいと思います。最後に学会運営に携わった皆様方のお心遣いに感謝申し上げます。

《海外からお知らせ》

＊Professor　Wailua Brandman
APRN-Rx PMHCNS/NP BC FAANP
より下記の情報が寄せられました。

アディクション看護関連会議
The second conference
December 10-15th, 2011.

It is being co-sponsored by the organization I co-founded, Hawai`i Association of Professional Nurses and the University of Hawa`i at Hilo College of Pharmacy. This is the second conference we have co-sponsored at the Fairmount Orchid Hotel in Kohala on the island of Hawai`i. Here is the link to the psychopharmacology workshop on addiction :
http://uhhpharmace.uhhconferencecenter.com/
for a December Pharm course (15 Es) in Kohala, HI, at the Fairmount Orchid Hotel.

〈デッカー清美氏　訳〉

第２回目アディクション看護学会のお知らせ

学会は私が共同で設立した専門看護師協会とHILOカレッジの薬学部にあるハワイ大学との共催によるものです。開催地はハワイ島のKohalaにあるFairmount Orchid Hotelで共同主催した２回目の学会です。午前中は学会で、午後は自由なので素晴らしいハワイ島の観光を楽しんではいかがでしょうか。

＊アメリカ精神看護協議会25周年記念学会 in カリフォルニア・ディズニーランド！が開催されました。アディクション関連の研究の一部をご紹介いたします。（発表内容の詳細を載せることができませんが、一部要約を掲載いたします。）

下記のアドレスからカンファレンスの概要を知ることができます。

APNA25th ANNUAL CONFERENCE
October 19-22, 2011
Disneyland® Hotel at the Disneyland® ResortAnaheim, California
www.apna.org/AnnualConference.

3047: Theoretical Concepts to Treat Individuals with Eating Disorders: An Integrative Approach
Speaker: Kristen Vandenberg, DNP, FNP-BC, FPMHNP-BC

Abstract

Research indicates that eating disorders are one of the least likely psychological disorders to receive adequate treatment, resulting in serious consequences.

The psychological treatment of individuals with eating disorders is a challenging endeavor, with many individuals lacking the motivation to change, thusre quiring long term

and costly therapy. It is imperative for the advanced practice psychiatric nurse to be aware of recent literature related to current and new therapy techniques in order to provide evidence based care that is successful. This presentation will discuss evidence based integration of the most commonly used therapy modalities for eating disorders: cognitive behavioral therapy, interpersonal therapy and family therapy. Discussion will also include cultural and gender considerations.

〈森主奈央子氏　訳〉

摂食障害の個人を治療する理論コンセプト：統一したアプローチ

Speaker: Kristen Vandenberg,

(NP博士号、協会認定家族NP、協会認定家族精神NP)

要約

摂食障害は、十分な治療を受けることが最も少ない精神障害の一つであり、深刻な結果を引き起こしていると述べている。摂食障害の個人の精神治療は挑戦であり、多くの個人は変わろうとするモチベーションを欠いている。それゆえ、長い期間、費用のかかる治療をおこなう必要がある。

上級精神看護師にとって、エビデンスにもとづいた、治療を成功させるケアを提供するために、最新の新しい治療技術に関する最近の文献に敏感であることは、避けられない義務だ。このプレゼンテーションでは、摂食障害のもっとも一般的に使われる治療法（認知行動療法、対人関係療法、家族療法）の、エビデンスを基にした統一について説明する。また、文化や性についての考察も述べる。

4012（EMERGENCY DEPARTMENTS TRACK) Psychiatric Advanced Practice Registered Nurse Role in Alcohol and Substance Abuse

Evaluation in the Emergency Department: DAWN-ing of a New Day (RN, APRN)

4012（救急領域分野）

救急領域でのアルコールと薬物中毒評価における精神科上級看護師の役割

Speaker: Vanessa Genung PhD, RN, PMHNP-BC, LCSW-ACP, LMFT, LCDC; Gina White MSN, RN; Vicki Moceo MSN, RN-BC

こちらの発表は、スピーカーのご厚意によりホームページにパワーポイントや配布資料をアップしております。会員ログインでご覧ください。（荒木）

〈国内研修会開催のお知らせ〉

① 日時

平成24年２月25日（土）午後

（アルコール家族会と合同）

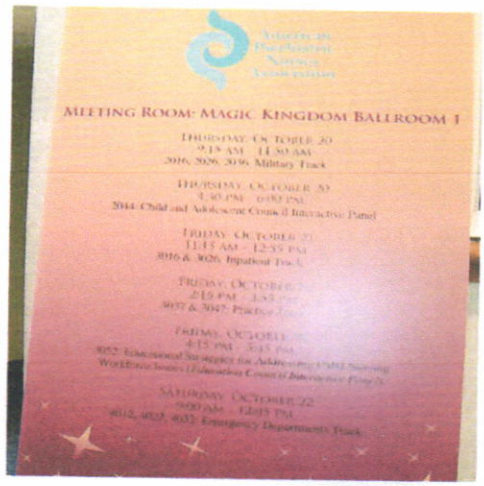
② 場所　秋元病院新棟４階会議室

③ テーマ　依存症と多職種連携

―多職種の内容は、内科や訪問看護を主に―

編集後記

APNA 25th Annual Conference October 19-22, 2011 に参加してきました。



ロサンゼルスのディズニーランドは、老若男女ともに仮装をしてハロウィーンパーティーを楽しんでいました。

【事務局所在地／連絡先】
〒350-1241 埼玉県日高市山根1397－1
埼玉医科大学　保健医療学部
看護学科 松下年子研究室
日本アディクション看護学会事務局

TEL 042-984-4925（丸山昭子直通）
FAX 042-984-4804
【事務局e-mail】jssan@saitama-med.ac.jp

アディクション看護学会のニューズレターを担当していると話しましたら、関係者の皆様から多くの情報を提供していただき、記事として掲載できました。

日本の方も是非に来年発表しに来てくださいとおっしゃっていました。

下記の写真の方は、前年度の会長です。

Carole Farley-Toombs, MS, RN, NEA-BC

下記の写真の方は新会長です。

Marlene Nadler-Moodie, MSN, APRN, PMHCNS-BC

《事務局からお知らせ》

入会申し込み・学会費未納の方は、振込用紙をホームページからダウンロードしてご使用ください。

http://plaza.umin.ac.jp/~jaddictn/

現在会員数:165名　施設数102施設

(2011.11.15現在)

日本アディクション看護学会補助機関誌
ニューズ・レター　第18号

発行：平成23年12月10日
編集長：荒木とも子
発行者：丸山　昭子
日本アディクション看護学会事務局